



さらには、日中最大 16 時間冷却を停止し 95%\*も電力を削減しながら冷たい製品を提供できる「ピークシフト自販機」の設置を今後も積極的に促進してまいります。

今年 4 月に施行された「改正省エネ法」では、8 時-22 時の時間帯における電気需要の平準化が求められていますが、「ピークシフト自販機」は、それよりも長い 7 時-23 時の時間帯に最長 16 時間冷却を停止し、最大時 95%\*の電力を削減しながら、冷たい製品を提供することができる唯一の自動販売機です。

「ピークシフト自販機」は、第 10 回エコプロダクツ大賞「推進協議会特別賞（節電優秀賞）」、平成 25 年度省エネ大賞では最高賞である経済産業大臣賞を受賞しています。

\*2010 年夏季の日中最大使用電力との比較による



平成25年度  
**省エネ大賞**  
(省エネ事例部門)  
主催：一般財団法人省エネルギーセンター

<テーマ>

ピークシフト自販機の

開発・普及による節電対策

## 【工場】

札幌工場では、井戸ポンプの日中運転を停止することや、不要箇所の消灯などで、ピーク時間内の消費電力を削減いたします。

その他、オフィスや倉庫内での照明の間引きや小まめな消灯といった省エネ活動とあわせ、当社全体で 7 月 1 日より 9 月 30 日まで電力使用ピーク時間帯(9 時~20 時)における電力使用量を、2010 年夏季の最大使用電力と比べ 15%以上削減するべく取り組んでまいります。

自動販売機における自主的な節電の取り組みを生活者やカスタマーのみなさまに広く認知いただけるよう、全国のコカ・コーラシステム共通で、自動販売機に貼るステッカーや、従業員が身につける節電バッジを 2012 年より使用しております。



【ステッカー】

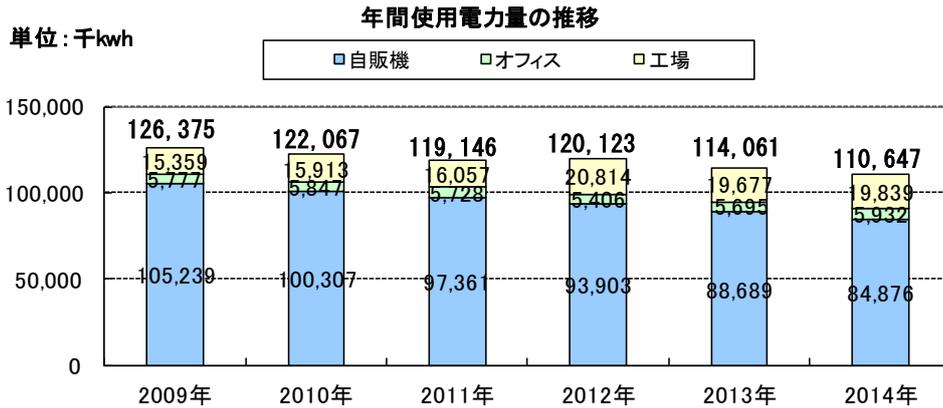
当社では北海道のみなさまの水分補給ニーズにお応えし、清涼飲料水を安定的にご提供するために、今後も全国的な電力の安定供給に貢献するため、お客様のご理解をいただきながら、節電の取り組みを継続して進めてまいります。

<参考資料>

1. これまでの省エネ実績

北海道コカ・コーラグループは、事業活動における年間使用電力量(kwh)を継続的に削減しております。

自動販売機および工場における省エネ化の各種取組みに加え、オフィスでは従来からの温度管理の強化や使用電力の見える化、クールビズ、ウォームビズなどを継続しております。また、一部の事業所にはソーラーパネルの設置や、省エネタイプの照明器具を導入するなど、一貫した省エネ活動を行っております。

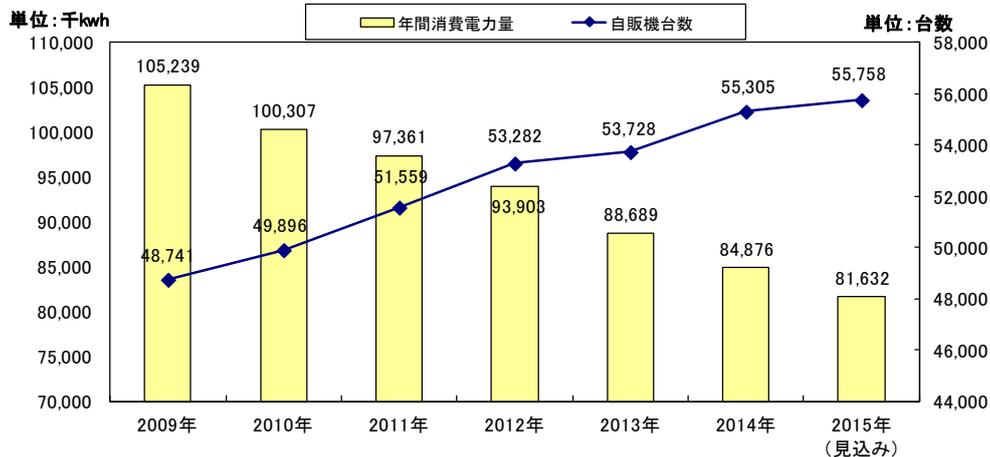


(1) 自動販売機の年間消費電力量(kwh)推移

北海道コカ・コーラグループで保有する約 54,000 台の飲料用自動販売機は、毎年 3～5%の電力量を削減し、省エネ化を進めております。

<缶自販機・カップ自販機の年間消費電力量推移>

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年(見込み)
年間消費電力量	105,239千kwh	100,307千kwh	97,361千kwh	93,903千kwh	88,689千kwh	84,876千kwh	81,632千kwh
(前年増減率)	-	95.3%	97.1%	96.4%	94.4%	95.7%	96.2%
自販機台数	48,741台	49,896台	51,559台	53,282台	53,728台	55,305台	55,758台
(前年増減率)	-	102.4%	103.3%	103.3%	100.8%	102.9%	100.8%
内訳	通常機	44,612台	40,912台	38,276台	36,033台	32,299台	29,834台
	ノンホットホン機	4,129台	8,984台	13,283台	17,249台	19,758台	21,324台
	ピークオフ機					1,671台	4,147台



- ◆年間消費電力量(kwh) : 毎年 3~5%の電力量削減を実施  
2009 年比約 19%の消費電力量削減
  - ◆ノンフロンヒートポンプ自販機 : 毎年 4,000~4,500 台の投入  
ヒートポンプ機以外の機種も各種省エネ機能を搭載
- ※2020 年までに全数「ノンフロンヒートポンプ機」へ切替え予定

## 2. 自動販売機の省エネ機能

### (1)ピークカット機能

これは、飲料自動販売機業界の取り組みとして、1995 年から実施しています。  
7 月から 9 月の夏場は冷房需要が急速に拡大し、特に午後 1 時から午後 4 時までの時間帯はたくさんの電力が使われていますが、これをピーク時間といいます。そこで、少しでもピーク時間帯における電力使用を抑制するため、10 時から 13 時までに自動販売機の冷やしこみを行い、ピーク時間帯に冷却運動をストップすることでピーク時間帯の電力抑制に協力する機能です。現在はほぼ全台に普及しています。

### (2)学習省エネ機能

自動販売機内のコンピュータが、たくさん売れる時間帯とあまり売れない時間を記憶します。その販売傾向の学習により必要な場所を冷やすことで消費電力を減少させる機能です。この機能は、1998 年より導入され、現在はほぼ全台に普及しています。

### (3)24 時間消灯

自動販売機の照明消灯による消費電力削減活動です。照明を消灯するという、わかりやすく、かつ見える省エネ活動は、暮らしの「便利」と同時に環境への「やさしさ」を消費者へ届けることができる、さりげなくて効果の大きいエコ活動です。

2008 年から屋内の自動販売機を対象に実施し、屋外はデイライト機能にて夜間のみ点灯しています。

### (4)ピークシフト自販機

2013 年 2 月より全道への導入を行ない始めた超省エネ型自動販売機です。省エネのために進めてきた部分冷却から発想を変え、比較的電力に余裕がある夜間に収容製品の全量を冷却し保冷機能を高めることで、長時間冷却を停止しても、製品の温度上昇を抑制する「全体冷却」、真空断熱材の採用などによる「断熱効果の向上」、また「機密性向上」といったピークシフトテクノロジーにより、冷却のための電力使用を、一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕がある夜に「シフト」しています。これにより日中の消費電力は 95%の削減となります。